

中国の国語教科書の研究

－初級中学の場合を中心に－

丁 秋娜

キーワード：中国の国語教科書、初級中学、語文教学大綱、語文課程標準、国定制、検定制

【要 旨】中国の初級中学は日本の中学校に相当する。本稿は、中国の初級中学の「語文教科書」（日本の国語教科書に当たる）について考察する。中国では従来、「語文教学大綱」（日本の学習指導要領に当たる）の基準に基づいて、人民教育出版社（国家教育部の直属機関）が全国共通の国語教科書を1種類だけ作成していた。しかし、各地域の多様な需要や、生徒の多様な学力に対応するため、1986年大綱の実施とともに、1980年代後半から、教科書を多様化する改革が進められ、国定制教科書の時代から検定制へと移行している。今回研究の対象とした版は、1986年の「全日制中学語文教学大綱」に基づいて作成した『初級中学課本 語文』第3冊（中学二年上、人民教育出版社）と、2001年「全日制義務教育語文課程標準」に基づいて作られた『語文』（八年上、人民教育出版社）である。さらに、地方で編集された教科書から江蘇教育出版社の『義務教育課程標準実験教科書 語文』（八年上）を取り上げて研究対象とし、中国の国語教科書の特色について明らかにする。

一. はじめに

中国の「初級中学」は、日本の中学校に相当する。1986年に「中華人民共和国義務教育法」が実行されて以来、小学校と合わせて9年の義務教育となっている。小学校は5年制（約35%を占める）と6年制（約65%を占める）の2種類があるのと同時に、初級中学も3年制（98%）と4年制（2%）がある。本稿では、大多数を占める3年制初級中学を研究の対象とする。

中国では、日本の国語に相当する科目は「語文」と称する。1949年の建国から2001年まで、語文教科書は「語文教学大綱」に基づいて作成されており、2001年から「語文課程標準」によって編集されている。現在、課外読み物や練習問題集など副教材の使用が多くなっているが、教科書は授業において相変わらず中心的な位置を占めている。教科書に関する研究を通じて、編集者の考え・意図と検定を行う国家教育部の語文教育に対する態度・方針・政策を捉えることができる。同時に、教科書を使う教育現場の様子も窺える。

本稿では、建国後（1949年以降）の「語文教学大綱」と「語文課程標準」の変遷を通時的に分析し、語文という教科の性質・目標の変遷を明らかにして、教科書編集における方針変更の実態を究明する。また、使用された時期と出版社が異なった3種類の教科書を取り上げて、具体的にその変化を考察したい。なお、本稿における中国の文献の日本語訳は筆者の訳出による。

二. 初級中学における「語文教学大綱」と「語文課程標準」の変遷

1. 教育課程の変遷

「語文教学大綱」は、1949年の建国から2001年までの約50年の間に、7回の大きな改訂を重ねてきた。次の表1に改訂の経緯をまとめて示す。

表1：建国後初級中学における教学大綱一覧表

年	時 期	名 称	課程名称
1950年	建国初期	編集大意	語文
1956年	漢語・文学分科期	初級中学漢語教学大綱（草案1）	漢語
		初級中学文学教学大綱（草案）	文学
1963年	20世紀60年代	全日制中学語文教学大綱（草案）	語文
1978年	改革開放初期	全日制十年制中学語文教学大綱（試行草案） ※1980年に修訂が行われた	語文
1986年	改革開放初期	全日制中学語文教学大綱 ※1990年に修訂が行われた	語文
1995年	義務教育時期	九年義務教育全日制初級中学語文教学大綱（試用）	語文
2000年	義務教育時期	九年義務教育全日制初級中学語文教学大綱 （試用改訂版）	語文

これら大綱の改訂は以下のような二つの時期に分けて考えることができる。

1. 混乱を收拾し、秩序を回復する時期（1950年～1986年）

1950年の「編集大意」は正式の大綱ではなく、教科書編集責任者であった葉聖陶が、初級中学・高級中学（日本の高校に相当する）の語文教科書の使用について作成した「使用説明書」のようなものである。1956年には、語文科（国語科）を「漢語」と「文学」に分けてそれぞれ教学大綱を作成した。1963年大綱は教材選定について「文質兼美」⁽²⁾ という基準を提出して、「積極的な思想内容と優れた芸術形式を備え、生徒が学ぶ典範になる」ことを求めている。また、指導法については、伝統的な方法に復帰し、繰り返し読むことと書くことを通して上達させるように要求した。後の大綱にかなり大きな影響を与えた。ここでは取り上げないが、1978年大綱は形式・内容ともに1963年版とほとんど変わっていない。しかし、1963年大綱と1978年大綱との間に文化大革命が挟まれているため、この時期は大綱そのものが機能していなかった。

2. 教育改革を深化させる時期（1986年～2000年）

1986年大綱は、「難易度を下げ、負担を軽減し、要求を明確化する」という主旨を掲げている。これまでの多すぎる内容を減らし、高すぎる要求を低くした。さらに、この大綱には、「基本課本」190編を選定し、それ以外には各地域の実際状況により作成してもいいと記されている。この規定によって、その後の教科書の使用は「一綱多本」（ひとつの大綱に基づ

いて複数の教科書が編集される) という状況になって、中国の国語教育に画期的な変化をもたらした。2000年大綱は、さらに大きな進歩を遂げた。指導の要求をさらに具体化し、数値目標まで明記している。例えば、初級中学まで3,500字の漢字を覚え、黙読の速度は1分間に最低500字、課外読み物は年間最低80万字のものを読まなければならないなどのように数値目標で学習の量を明確に規定している。そして、「暗誦を勧める古詩文リスト」と「課外読み物のリスト」を公表した。このような目標数値の明記と推薦教材リストの公表は語文教学大綱史上において初めてなことで、画期的なものであると言える。

以上のような経緯がある中で、1999年に中国教育部により「基礎教育課程改革綱要（試行）」が施行され、小学校・初級中学・高級中学を対象にした15カ年計画の基礎教育課程改革が始まった。2001年7月に「全日制義務教育語文課程標準（実験稿）」（小学校・初級中学）、2003年3月に「普通高中語文課程標準（実験稿）」（高級中学）が実行され、これまでの「語文教学大綱」の代わりに語文教育の性質と地位、課程目標、過程内容及び各学年の課程内容の編成などを詳しく規定する。また、大綱と違い、知識と技能、課程と方法、情感態度と価値等についての基本要求を規定している。

2. 語文教育の目標

上述した各大綱では、語文教育の目標はそれぞれ次のように示されている。

- ・ 思想政治教育を行い、生徒たちに切実に体得させ、確実に役割を果たさせる。(1950年、編集大意)
- ・ 生徒たちが祖国の言語と文字を正確に理解し運用できるように指導する。現代語文における読む能力と書く能力を養わせ、初歩的な文言文（古典）を読む能力を育てる。(1963年、全日制中学語文教学大綱)
- ・ 中国の語文教学は必ずマルクス主義の立場と観点に立脚して、生徒が教材と必要な語文知識を学ぶのを指導し、厳格な読み・書きの訓練を行い、生徒に思想教育を受けさせ、常に社会主義的覚悟を高め、無産階級の意識を強め、無産階級世界観を樹立させる。(1980年、全日制十年制中学語文教学大綱)
- ・ 指導の過程において、生徒の視野を広げ、知力を伸ばし、生徒の社会主義道德情操と健康で高尚な審美観と愛国心を養わせ、社会主義的覚悟を高める。(1990年、全日制中学語文教学大綱)
- ・ 指導の過程において、生徒が祖国の言語文字を熱愛し、中華民族の優秀な伝統文化を愛する感情を育て、社会主義思想道德と愛国主義精神を育成し、高尚な審美観と一定な審美能力を養わせ、健康な個性を発展させ、健全な人格を形成させる。(2000年、九年義務教育全日制初級中学語文教学大綱)

「編集大意」は、教育の目的を思想政治教育に限定していた。1963年版は、当時の語文教育の偏向した実情を反省し、「通常は、語文の授業を政治の授業にも文学の授業にもしてはいけない」という原則を明記したが、文化大革命が行われたため、その理念は実際には実現しなかった。1980年版では、「思想政治教育は語文科の特徴に従い、読むと書く練習の中で行われなければならない

らない」と記したが、「マルクス主義の観点」や「無産階級」や「共産主義的道德品質」のような表現が多く見られる。その後の大綱には、例えば、1986年版ではそういった言葉は見られなくなり、代わりに「審美観」や「愛国主義」や「社会主義道德情操」という語句が多く使われるようになった。1996年版と2000年版の大綱では、「審美観」「愛国主義」という言葉が定着しつつ、「中華民族の優秀な伝統文化」という新しい文言が登場した。これらの言葉を繰り返し使うことから、語文教育は「政治」と「道德」と作用しあって行われていることがわかる。

そもそも、教育そのものの目的に目を向けると、語文教育の核心は、生徒たちに語文能力、すなわち、「祖国の言語と文字を正確に理解し運用できる」、「現代語文における読む能力と書く能力」、「初歩的な文言文を読む」能力を身につけさせることであり、また「聞く・話す・読む・書く」の4技能を養わせることである。とりわけ、2000年版の大綱に、「健康な個性を発展させ、健全な人格を形成させる」と画期的な観点がある。教師主導の授業形態から一人ひとりの生徒の実態を配慮し、それぞれの個性と特長を生かす授業に展開させようとする意図が窺える。

一方、課程標準では、語文教育の目標について、「総目標」には全部で10項目が記載されているが、以下の3項目に分類できる。それぞれの項目にかかわる内容を、以下に引用する。

1. 道德・文化について

「語文を学習するにあたって、愛国主義感情と社会主義道德を育て、積極的な人生态度と正確な価値観を樹立させ、文化品位と審美観を高める。」「中華文化の偉大さを認識させ、民族文化の知恵を吸収させる。現代の文化生活に関心を持ち、多様な文化を尊重する。」

2. 技能について

「自ら進んで探究的学習をし、実践の中で語文を学習し、運用する。」「独力で読む能力を持ち、感情体験を蓄積する。良好な言語感覚を養う。多様な読み方を運用し、個性を発展する。精神世界を豊かにする。辞書の助けを借りて平易な文言を読む。」

3. 総合発展について

「言語力を発展させると同時に、考える力と想像力を育てる。实事求是の態度を養う。科学的思考を基礎から理解する。」

道德教育・文化教育は教育目標の第一に据えられていることから、道德教育が語文教育において重要な地位を占めていることが明らかになる。一方、技能面では生徒それぞれの個性を配慮し、読書を通して心を豊かにする教育理念が定着しつつあった。それらの活動を通して、最終的な到達点は、生徒一人ひとりを豊かな心を持ち、個性豊かで、实事求是の姿勢を持つ人間に育成することに置かれていることが明らかになった。

以上の建国後の語文教学大綱と課程標準の分析から、以下の3点を指摘することができる。

1. 大綱と課程標準にはともに政治や思想に関する表現が多く見られる。道德・文化教育の色合いが強い。
2. 文章を読み取る能力だけを養い、受け身の生徒を育ててきた従来の教育方式を反省し、生徒の個性と特長を配慮し、主体的な学習態度を育成する。

3. 中国は地域によって様々な事情があるため、「一綱多本」は実際の需要に応じた的確な政策であると思われる。先進地域と後進地域の間に差が大きいため、学習の負担を減らす必要がある地域もあれば、義務教育のレベルでは満足できない地域もある。この現実を受け止め、義務教育として最低限の要求を満たす全国共通教科書と、各地域で各自に発行された地方教科書がそれぞれ作られている。

三. 初級中学の語文教科書について

1. 語文教科書の仕組み

中国では、従来、小学校・初級中学・高級中学の教科書は、人民教育出版社による全国共通の国語教科書しかなかった。しかし、各地域の多様な需要や、生徒の多様な学力に対応するため、1986年大綱の実施とともに、1980年代後半から、教科書を多様化する改革が進められ、国定制教科書時代から検定制へと移行している。教材検定の機関として、1986年に「全国小中学教材検定委員会」が設置された。こうして従来一体化した編集機関と検定機関が二つに分けられることとなっている。現在では、語文教材の改革は各方面から模索と実践が始まり、各機関または個人が「語文課程標準」に準じて、執筆・編集した教科書が検定委員会の審査を経て、各学校で使用されている。ただし、人民教育出版社は引続き教科書の編纂を行っている。

2009年現在、人民教育出版社が出版した全国通用教科書が全土大部分の小中学校で使用されているほか、「課程標準」に基づいて各地の教育出版社や師範大学が出版した教科書も使われている。ここで注目すべき点は、検定委員会の検定を通過した地方版教科書は、その地方の学校のみでなく、全国どこでも使用することができるという点である。例えば、江蘇省教育出版社版の教科書は江蘇省のほか、山東省、山西省、浙江省などの地域の小中学校でも使われている。逆に山東省では、山東教育出版社版のほか、人民教育出版社版、江蘇教育出版社など複数の種類の教材が使用されている。つまり、各小中学校と地域は教科書を選んで使うことができる。

中国の学期は2学期制で、1学期は2月～7月、2学期は9月～1月である。初級中学の語文教科書は、各学年上下2冊に分冊されており、計6冊となっている。代表的な人民教育出版社の教科書で見ると、サイズはいずれもB6判横書きで、教材本文の場合1頁約560字、頁数は約260頁平均となっている。色のついた絵や写真は教科書の最初の部分にまとめて載せられ、教材に出てきた挿絵は白黒のものである。そして、活字が小さく、情報量が多い。日本の教科書と比べると、かなり素朴な印象である。中国の義務教育課程では、学費は無料であるが、教科書は無償ではない。人民出版社版の教科書は一冊あたり6.55元である（2009年現在、日本円に換算すると100円弱）。一方、課外問題集や入試対策などを見ると、この価格で買える書籍はほとんどない。このような事情を考えると、教科書の作成と販売は全国の中学生が入手できるように廉価を旨としていることがわかる。

2. 人民教育出版社版教科書の旧版と現行版についての考察

前に述べたように、人民教育出版社版の教科書は国定制教科書時代から検定制になって、改訂されながら現在（2009年）まで使用されてきた。中国の語文教科書の現状を分析するための基本

的な資料となることから、本稿は、まず人民教育出版社版の旧版と現行版を取り上げ、通時的に比較してみる。また、現行の人民教育出版社版と地方版教科書について共時的比較を行いたい。

本節では、1986年版「全日制中学語文教学大綱」に基づいて作成した『初級中学課本 語文』第3冊（中学二年上、人民教育出版社）と、2001年「全日制義務教育語文課程標準」に基づいて作られた『語文』（八年上、人民教育出版社）の教材を考察の対象とする。

2. 1. 1986年大綱版語文教科書について

1986年大綱版の教材について、「目録」は次の表2のとおりである。

表2：『初級中学課本 語文』第3冊（中学二年上、人民教育出版社）

単元	教 材 名	ジャンル	著者	出典または創作時期
1. 記叙文	1. 小さな出来事	小説	魯迅	『呐喊』1919
	2. 七本のマッチ	小説	王願堅	1958
	3. ※自分のすべてを献げて	随筆		(書き下ろし)
2. 記叙文	4. 後ろ姿	随筆	朱自清	『朱自清散文全集』
	5. 茶花ノ賦	随筆	楊朔	『楊朔散文選集』1961
	※ 6. 糸つむぎ機について	随筆	呉伯簫	1961
3. 記叙文 (重点単元)	7. 故郷	小説	魯迅	『呐喊』1921
	8. 灼熱の太陽と暴雨の中で	小説	老舍	『駱駝祥子』1935
	※ 9. 制総督外人に会う	小説	李宝嘉	『官場現形記』
4. 説明文	10. 中国の石拱橋	説明文	茅以昇	「人民日報」1962
	11. 蘇州の園林	説明文	葉聖陶	『百科知識』1979
	※ 12. 蚕は死ぬまで糸を吐く	説明文		(書き下ろし)
5. 説明文	13. 宇宙に何があるか	説明文	鄭文光	1957
	14. 食べ物はどこから来るか	説明文	朱相遠	「人民日報」1959
	※ 15. 不思議なレーザー光線	説明文		(書き下ろし)
6. 記叙文	16. 牽牛と織女	伝承		(書き下ろし)
	※ 17. 孟姜女	伝承		(書き下ろし)
	18. 連続三級昇進する	落語	劉宝瑞	1956
7. 議論文	19. 重荷をおろして機械を働かせよ	議論文	毛沢東	『毛沢東著作選読』1944
	※ 20. 批評と自己批評	議論文	毛沢東	『毛沢東選集』1945

8. 現代詩歌	21. 周総理、あなたはどこに	現代詩	柯岩	「人民日報」1979
	22. シレジアの職工	現代詩	ハイネ (ドイツ)	1844
〔文言文〕	23. 愚公移山（『列子』）／24. 童区寄伝 柳宗元／25. 李愬雪夜八蔡州 司馬光／ 26. 大鉄錘伝 魏禧／27. 馮婉貞／28. 短文二篇：陋室銘 劉禹錫／愛蓮説 周敦 頤／29. 図画 蔡元培／30. 詩詞八首：木蘭詩／※望天門山 李白／※十一月四日 風雨大作 陸遊／※石灰吟 于謙／※送杜少府之任蜀州 王勃／※春夜喜雨 杜 甫／※憶江南 白居易／※漁歌子 張志和			

（無印は講読教材、※印は読書教材）

教師用指導書では、次のように解説されている。「教学要求に従って、本冊には30課の課文（うち35％が閲読課文）が入り、記叙文17課、説明文7課、議論文3課、詩歌3課から成っている。そのうち現代文22課、文体と表現の特色に従って8単元の組み立てとなっており、文言文8課は、浅深の程度及び文体・制作年代によって、集中して編成している。」

記叙文、説明文、議論文、詩歌及び文言文という五つのジャンルがある。記叙文は中国独特の概念で、小説・物語・記事・随筆・感想・伝承・童話などを広く含むジャンルである。文言文は中国民国時代までのものであるが、文言用語を使い、文言文法に従って作ったものも含まれる。

教材には、講読教材と読書教材が区別されている。講読教材は一般に一教材につき2～3時間かけるのに対して、読書教材は1時間扱いになっている、または宿題として自宅で読み、授業では取り上げなくてよいとされている。

1986年版大綱では、「教材の内容」で、次のように記されている。

教材の選択に当たっては、表現・内容ともに優れ、学習指導の規範に適合するものが採られねばならない。

1. 思想内容が優れていること。採用される作品は「教学目的」の中で指示している思想政治教育要求に符合するものでなければならない（略）。
2. 文章表現が優れていること。採用される現代作品は文章表現の規範に合うもの、つまり、言葉の用法・表現・構成・編成などの点で典範性を備えているものでなければならない。
3. 学習指導に適合すること。教材の浅深・難易度は、必ず生徒の年齢上の特性と受容能力に適合するもの、つまり、一定の努力をし、教師の指導を得れば、生徒が理解できるものでなければならない。

思想内容・文章表現・学習指導に適合するかどうかの3点から、教材選定の要求を説明した。2と3は日本の学習指導要領の内容と似通っているが、1の思想内容を優先させる原則は中国の語文教学の特徴と見られる。

ジャンル別で教材の構成を見てみると、まず、記叙文は第一、二、三、六単元の4単位である。第一単元に収められた二篇の小説、魯迅の「小さな出来事」（車夫の行動に感動して、己の醜さや恥じを感じた）と王願堅の「七本のマッチ」（長征の途中、瀕死の若い「紅軍」（中国人民解放

軍の前身)の戦士は命をかけて守ってきた七本のマッチを戦友に捧げた)は思想教育、道德教育に関わる内容である。大綱の編集要求に従って教科書の冒頭に思想教育単元が置かれている。第二単元は著名作家の随筆作品である。第三単元は重点単元で、魯迅の「故郷」を代表として、いずれも有名な長編小説や小説集から抜粋したものである。第六単元は民話などによって作られた民間伝承である。

説明文は第四単元の「建築」と第五単元の「科学」である。「建築」単元に取り上げられた作品は中国古代の建築や庭園に関する内容で、生徒たちに多様な知識に触れさせ、視野を広げるほか、昔の人々の知恵と創造力の素晴らしさを認識させ、祖国の文化を誇りに思わせることを意図している。議論文は第七単元で、採録された二篇の作品はともに毛沢東の作品である。政治家だけでなく、文学者と詩人でもある毛沢東は文才に優れていて、その上、積極的な人生観と強い論理性はその作品の特徴である。中学・高校の教科書に毛沢東の作品が数多く収録されている。第八単元の現代詩歌単元に収録された「シレジアの職工」はドイツ詩人のハイネの詩である。批評精神に裏打ちされた作品で、シレジアの窮乏した織物工が起こした蜂起を題材にした時事詩である。最後に、文言文単元には、全部で8課の教材が取り上げられている。そのうち、7課の文言文教材はすべて講読教材であるのに対して、「詩詞八首⁽³⁾」の中、読書教材に扱われているのは7首もあり、中学校での古典学習は詩より文章に傾いている傾向にあることがわかる。

1986年大綱に準じて作成されたこの教科書は、旧版のものとはいえ、かなり質の高い教科書であると言える。文章のジャンルが豊富で、内容もしっかりしている。課外読み物の少ない80年代には、生徒にとって、視野を広げ知識を得るための有りがたい存在であった。また、「文質兼美」の要求に従って厳選された教材には「故郷」「後ろ姿」「中国の石拱橋」などのような定番教材も誕生させ、その後の教科書編集に大きな影響を与えた。

しかし一方、生徒の生活や経験につながる教材が少ない。それに対して、時事の文章が多い。そして、政治に関する議論文は理解しにくく、中学生用の教材として適合するかどうか疑問に思われる。

2.2. 現行の課程標準版語文教科書について

次に、現行の課程標準版教科書の内容構成の特徴を考察する。まず、その主な構成を紹介しておきたい。全体的に一番大きな特徴は、すべての単元を「閲読」と「総合性学習・作文・口語コミュニケーション」の二つの部分に分けられている点である。「課程標準」においては、「識字と写字(字を書くこと)・「閲読」(読むこと)・「作文」(書くこと)・「口語コミュニケーション(聞くことと話すこと)・「総合性学習(語文を運用する総合能力)」の五技能から生徒の語文能力を評価するシステムが導入されているため、「識字と写字」と「閲読」は「閲読」によって達成され、「作文」・「口語コミュニケーション」・「総合性学習」については各単元の「閲読」の教材の後に一つの特集の形で提示されている。まず、各単元の「閲読」教材は以下の表3のようになっている。

表3：『義務教育課程標準実験教科書 語文』（八年上⁽⁴⁾、人民教育出版社、2007）

単 元	教 材 名	ジャンル	著 者	出 典
1. 戦争	1. 記事二則：百万の人民解放軍が長江を渡った／我が軍は中原の南陽を解放した	記事	毛沢東	「人民日報」1949／「東北日報」1948
	2. 蘆花蕩	小説	孫犁	『孫犁文集』1981
	※ 3. 蠟燭	記事	シーモノフ (旧ソ連)	『閲読と鑑賞』
	※ 4. 英仏連合軍が中国へ遠征することについてバトラー上尉への手紙	文通	ユゴー (フランス)	『ユゴー文集』
	※ 5. 親愛なるお父さんとお母さん	随筆	聶華苓	「人民日報」1989
2. 愛	6. 阿長と『山海経』	随筆	魯迅	『朝花夕拾』
	7. 後ろ姿	随筆	朱自清	『朱自清散文全集』
	※ 8. 階段	小説	李森祥	『階段』1992
	9. 老王	随筆	楊絳	『楊絳散文』1994
	10. 飛脚	随筆	余秋雨	『文化苦旅』1994
3. 建築園林	11. 中国の石拱橋	説明文	茅以昇	「人民日報」1962
	※ 12. 橋の美	随筆	呉冠中	『呉冠中人生小品』2001
	13. 蘇州の園林	説明文	葉聖陶	『百科知識』1979
	14. 故宮博物館	説明文	黄传楊	『地理知識』1979
	※ 15. 「屏風」について	随筆	陳從周	『陳從周散文』1999
4. 科学世界	16. 大自然の言葉	説明文	竺可楨	『科学大衆』1963
	17. 不思議なクローン	説明文	談家楨	『中学科技』1996
	18. アシモフの短文二篇：あらゆるところに恐竜がいる／押し潰された砂	説明文	アシモフ (アメリカ)	『新疆域』1999
	※ 19. 生物侵入者	説明文	梅涛	
	20. あなたは必ず聞こえる	随筆	桂文亜	『少年文芸』1996
5. 古詩文	21. 桃花源記 陶淵明【東晋】／22. 短文二篇 ⁽⁵⁾ ／※ 23. 核舟記 魏学洢【明】／ ※ 24. 大道之行也（『礼記・礼運』）／25. 杜甫詩三首：望岳／春望／石壕吏			
6. 自然山水	26. 三峡 酈道元【北魏】／27. 短文二篇 ⁽⁶⁾ ／28. 観潮 周密【宋】／29. 湖心亭看雪 張岱【明末清初】30. 詩四首 ⁽⁷⁾			
課外暗誦する古詩文：長歌行（『漢樂府』）、黄鶴楼（崔顥）、送友人（李白）等 10 首				

名著の薦め：

1. 『朝花夕拾』（魯迅）：懐かしい思い出と理性的批判
2. 『駱駝祥子』（老舍）：昔の北京の人力車夫の悲しい物語
3. 『鋼鉄はいかに鍛えられたか』（オストロフスキー、ロシア）：理想主義の旗と人生の教科書

まず「閲読」の教材を見てみると、この一冊は六単元で、講読教材が16課、読書教材が14課、全部で30課の教材が入っている。六単元は、それぞれ「戦争」、「愛」、「建築」、「科学」、「古詩文」、「自然山水」の主題で組み立てられている。主題によって構成されている同時に、ジャンルの近い教材を一つの単元に入れることも工夫されている。つまり、「戦争」と「愛」にはすべて記叙文で、随筆や小説が多い。「建築」と「科学」は説明文がほとんどで、「古詩文」と「自然山水」は文言文単元である。

具体的に教材の内容を見ていくと、第一単元は戦争と歴史を題材とした作品である。この単元の構成について、人民教育出版社編『課堂教学設計と案例』（八年上）では、次のように解説されている。「本単元に収められた教材はすべて戦争に関する作品である。（略）叙事性を特徴とした作品である。ジャンルとしては、記事・小説・文通などがあり、戦争の勝利を記述したものもあり、その残酷さを指摘したものもある。著者の中には作戦を指揮した偉人もいれば、作家もある。中国の作品もあり、外国の作品もある。「課程標準」の要求に符合し、生徒の学習に適する」と。思想教育・道徳教育に関わる作品を第一単元に置くことは1986年大綱版の教科書と変わっていないが、ジャンルが多様であることは特徴である。第二単元は小説単元である。『課堂教学設計と案例』は、次のように説明している。「本単元の教材は「愛」をテーマにした叙事性が高い作品である。普段無視されてきた小人物、特に弱者を取り上げ、その人たちの貧しい生活と優しい心に注目させる」。いずれも名作家の作品ではあるが、魯迅の「阿長と『山海経』」や朱自清の「後ろ姿」などのようないわば「伝統的教材」のほかに、楊絳の「老王」や余秋雨の「飛脚」などのような現代作品も取り上げられている。新鋭作家の作品は「伝統的教材」と比べると、口語に近い平易な言葉を使い、作者の考え・思想・感情をストレートに表現しているため、文章は読みやすい。第三と第四単元の説明文については、旧版の教材と比べたら、特に大きな変化は感じられず、従来路線を踏襲している印象である。ただ、「不思議なクローン」や「生物侵入者」など科学に関する作品から時代の息吹が感じられる。第五と第六単元はともに古典単元であるが、それぞれに特徴がある。『課堂教学設計と案例』には、第五単元について、「本単元に採択された教材は、すべて昔から詠まれ続けてきた名作である。内容が優れたもので、そこに表れた作者の思想にも鮮明な時代的特徴が見られる。古代の社会状況と作者の思想傾向を理解する手助けになると同時に、今日の社会を認識し、自らの情操を陶冶するにもいい参考になる。」と述べられている。第六単元は自然の風物を詠う名作の集成で、これらの作品を学習することによって、生徒たちが自然に関心を持つことが望まれる。そして、古文教材は10編のうちの8編もあるということから、中学生にかなり高度な古典読解力が求められており、前の大綱版の分析と同じ傾向が見られる。

一方、「総合性学習」・「作文」・「口語コミュニケーション」は、「閲読」教材の学習後、作文・

話し合い・ディベート・資料調査・発表などの様々な活動を通して、本単元のテーマについてより深い理解を求めると同時に、生徒たちの話す・聞く・読む・書く力を総合的に養うこともねらっている。「総合性学習」・「作文」・「口語コミュニケーション」は、目録に記入された順番からわかるように、単元によって重点的に扱うものが異なる。第一単元「戦争」を例に挙げると、「総合性学習・作文・口語コミュニケーション」という形で、「総合性学習」に重きが置かれている。具体的にどのような活動を行うかという点、次のような内容が提案として記されている。

1. 今までの戦争を調べる。特に第二次世界大戦について、その起因、経過、結果を分析する。
または、マスコミに報道されたここ近年の戦争を調べて、友達と感想を語り合う。
2. あなたの家の近くに戦争の痕跡が残っているかもしれない、また、近所に住んでいる老人たちが戦争の経験者かもしれない。それを調べて、彼らの話を聞いてみよう。クラス会を開き、皆で話し合う。
3. 戦争についての言葉・熟語・文学作品・物語・名言を調べる。
4. 戦争はなぜ起こるか、戦争は社会に何をもたらすか、どうやって戦争から離れ、世界の平和を保つか。自分の意見・感想を作文に書いてみる。

調べる・聞く・話す・書く活動を取り入れて、豊富な内容が用意されている。ただ、以上の活動はあくまでも教科書編集側の提案として提示されているため、実際に総合性学習を行う時は、周りの設備や条件に合わせて活動を展開すればよいとされている。

2.3. 旧版と現行版語文教科書についての考察

前節では、1986年大綱版語文教科書と現行（2001年）の課程標準版語文教科書をそれぞれ考察し、分析してみた。旧版の教科書と比較すると、現行の課程標準版語文教科書の構成と内容には以下のような特徴が見られる。

1. 単元の組み立て方について、大綱版の教科書はジャンルを中心に構成されているのとは比べると、現行版は、主題とジャンルの両方を合わせる単元構成である。
2. 旧版の教科書に採録されている伝承・昔話単元は現行の教科書から姿が消えた。この一冊の教科書だけでなく、初級中学の六冊の教科書に伝承・昔話の教材がほとんど見当たらない。民話・民謡など伝承文芸を重要な文学教材のジャンルとして扱われていないことがわかる。
3. 現行版教科書は生徒の話す・聞く・書く能力と総合性学習する能力の育成を重視している。すべての単元には「総合性学習・作文・口語コミュニケーション」のコラムが設けられている。今までの読む能力だけを重視した教育方針を反省し、その内容は、調べる、話す、書く、発表する、討論するといった、広い意味での「語文能力」に関する課題が数多く用意されている。課程標準版の教科書はそれまでのものより、生徒の主体性を重視し、学習方法を身につけさせて自ら学び自ら考える力の育成を図ろうと工夫することがわかる。
4. 教科書の最後には、「読書の薦め」が載せられている。薦められたのはすべて長編小説である。部分掲載の形で教材を採用することが多いため、その全文を課外読み物として読ませる。教材作品に対する理解を深めると同時に、読書の量を増やし、視野を広げる効果が期待

できる。

5. 作品のジャンル・スタイルが多様になった。生徒の実生活と興味を配慮して、内容も現代風のものが多くなっている。一方、現代作品は内容が平易になった。例えば、大綱版にあった「故郷」(魯迅)は現行版の九年上、つまり3年生の教材に移り、一学年後になった。
6. 文言文教材が増えた。今回取り上げた中学二年上の教科書を見ると、大綱版は30教材のうち8教材が文言文であるのに対して、現行版は30課の教材のうち10教材である。古典教育を重視する方針は変わっていないことがわかる。

3. 現行地方版教科書と人民教育出版社版について

続いて地方教科書について、江蘇教育出版社版(以下、江蘇版と略す)のものを対象に取り上げる。2001年7月に「義務教育語文課程標準」が頒布され、同年内に新しい「課程標準」に準じて編纂された3種類の教科書は検定委員会の審査を通過した。江蘇版はそのうちの一つである⁽⁸⁾。教材開発の歴史が長い上、全国的に広く使用されていることから、分析の対象とした。まず、その構成を表4に紹介しておこう。

表4:『義務教育課程標準実験教科書 語文』(八年上、江蘇教育出版社、2007)

単 元	教 材 名	著 者 (出典)	ジャンル
1. 長征組歌	1. 七律 長征	毛沢東	現代詩
	2. 長征組歌二首 ⁽⁹⁾	蕭华	歌詞
	3. 老山界	陸定一	随筆
	4. 草	王願堅	小説
	5. 『長征』(抜粋)	王朝柱	脚本
	6. 詩人・リーダー(原題「詩人毛沢東」)	任先青	詩
	作文: 出来事の起因・経過・結果を順序良く書く		
2. 愛国心	7. ナツメの種	蕭乾	随筆
	8. 最後の授業	ドーデ(フランス)	小説
	9. 祖国を懐かしむ	劉智慶	記事
	10. 晏子使楚	『晏子春秋・雜下』	文言文
	11. 古詩四首 ⁽¹⁰⁾		詩
	12. 革命烈士詩二首 ⁽¹¹⁾	『革命烈士詩抄』	現代詩
	作文: 詳しい描写と簡潔な描写		
3. 家族愛	13. 後ろ姿	朱自清	随筆
	14. 甘い土	黄飛	小説
	15. 人琴俱亡	『世説新語』劉義慶	物語
	16. 私の母	邹韬奮	随筆

3. 家族愛	17. 親の心	川端康成（日本）	小説
	18. 古詩三首 ⁽¹²⁾		詩
	作文：文章の構成を練る		
4. 自然山水	19. 小石潭記	柳宗元	文言文
	20. 記承天寺夜遊	蘇軾	文言文
	21. 阿里山紀行	呉功正	紀行
	22. 青いヴェニス	馬信徳	紀行
	23. 古詩三首 ⁽¹³⁾		詩
	読書の薦め：『トム・ソーヤーの冒険』 作文：紀行文を書きましょう		
5. 人間と 自然環境	24. 蘇州の園林	葉聖陶	説明文
	25. 都会に生きる動物たち	舒乙	随筆
	26. 静かな小道の悲劇	季羨林	随筆
	27. 明日はベランダを閉ざさない	杜衛東	随筆
	28. 治水必親躬	錢泳	文言文
	作文：抒情と議論を記叙文の中に運用する		
6. 科学技術	29. 幼いころから科学を愛するべき	蘇歩青	説明文
	30. 宇宙の中で暮らす	ジェリー・M・リニ ンガー（アメリカ）	説明文
	31. 不思議なクローン	談家楨	説明文
	32. 遺伝子組み換え花をあげよう	小祥	説明文
	33. （自由教材）		
	34. 古詩三首 ⁽¹⁴⁾		詩
	作文：書きたいことを自由に書こう		

人民教育出版社版はすべての教材を「講読」と「読書」に分けてあるのに対して、江蘇版は授業の実際において教師自らが講読と読書の教材を決めることができ、弾力的な活用が可能となっている。そして、いくつかの単元にはあえて空欄を残しており、教師と生徒は自ら作品を選んで読む仕組みになっている。教材の開放性と弾力性を備えたこのような単元の構成は教材編成に革新をもたらしている。

単元ごとに教材を分析する。まず、第一単元と第二単元はそれぞれ「長征組歌」と「愛国心」という主題で、この二単元に収録されている教材はほとんど戦争や人民解放軍に関わる内容である。思想教育のための単元という色合いが強くて、生徒たちはそれに抵抗を持つのではないかとと思われるが、現代詩、脚本、小説、回想録など様々なジャンルが揃い、さらに翻訳作品（「最後の授業」）と古典作品（「晏子使楚」「古詩四首」）も入っていて退屈なイメージがない。第三単元

は「家族愛」というテーマで、わが子に対する親の愛情を題材とした作品がほとんどである。この単元に、川端康成の作品が掲載されている。第四単元「自然山水」は紀行文単元である。続けて第五単元「人と環境」は定番教材の「蘇州の園林」のほか、すべて新しい作品である。人民教育出版社は有名な建築や園林を描写する説明文が多いのに対して、江蘇版教科書は人間の過度な開発による環境危機を題材に取り上げる反省的な作品が多い。最後に第六単元「科学技術」は、「空欄教材」が入っており、教師の指定した作品または生徒が読みたい作品を扱っていいとされている。

江蘇版教科書の一番の特徴は単元の編成である。目次を見てすぐ気付かされることは、単元はジャンルと関係なく、主題のみによって編成されていることである。この「主題単元」の構成について、江蘇版教材の編集長洪宗礼は次のように述べている。⁽¹⁵⁾

これまでの教材の編集は、「学科本位」「教師中心」の教育理念に基づいて行われてきた。

その結果、教材は語文知識の系統性だけを求めて、教材内容は煩雑で古臭くて、人文精神が薄れていた。(略)「主題単元」によって、「読む・聞く・書く・話す」ことと、総合活動と特定テーマをすべて最適化し、総合的視点から語文教育の学習効果を求められる。

これまでの人民教育出版社版の教科書は知識の注入に重点を置き、教師は自らの主張を生徒に押し付けるという状況を批判した。それを踏まえて、今後の語文教育は教材内容を一新し、教育指導に多様な活動を取り入れることによって、生徒たちに興味・関心を持たせる「主題単元」の学習を主張している。

主題単元は初級中学の6冊の教材を意識して編纂されたものとして、その全体を視野に入れてからでないとこの教科書の特徴を正確に把握することはできない。例えば、7年上は、「文学に親しむ」「懐かしい思い出」「民族風俗」「多彩な四季」「科学に関心を持つ」「奇想天外」という6単元からなっている。8年下には、「景物描写による感情描写」「道德修養」「物事の説明」「小説の森」「人生体験」「すばらしい演説」の6単元が入っている。全体的に見れば、実に多様な主題が用意されていることがわかる。

ただ、人民教育出版社版と比べて指摘できることは、逆にいうと、江蘇版の教科書は単元と単元との間に明確なつながりが持たれていないため、単元としての連続性が見られない点である。単元として指導のねらいが明確に持てないことは、江蘇版の単元学習の大きな欠点である。そのため、「人文性偏重、工具性不足」と批判されている。

以上、江蘇版教科書を考察してみた。人民教育出版社版教科書と比べて、その共通点をいくつか指摘できる。

1. 教師と生徒、教材の編集者と生徒が対等である教育理念が共通している。例えば、人民教育出版社版では、その「はしがき」に、「親愛なる中学生の皆さん、新しい学期が始まりました。斬新な語文教科書を手にとって、あなたはきっと、また新しい語文学習の旅が始まる、とわくわく思っているでしょう」と書いてある。このような会話式導入は、教材の編集者と平等に対話しているように生徒たちに親近感を与える。江蘇版にも同様の姿勢が読み取れる。
2. 生徒は学習の主体であり、自主的な学習を行わせようとする姿勢が見られる。中国の語文教育は文章を読み取る受け身の生徒を育ててきたが、現行の教科書では、調査・発表・討論の比

重が増える傾向が顕著になってくる。従来のように教師の説明をそのまま受け入れさせるのではなく、生徒間で意見交換を行わせることによって、自分たちの力で問題を解決する習慣を身につけさせる。

3. 開放性と弾力性を備えている教材の構成。人民教育出版社版は各単元の教材は講読教材と読書教材とを使い分ける。江蘇版ではそれが特定されていないため、教師と生徒が選べる自由度がさらに高い。
4. 二つの教科書は単元名を重複したものが多く見られる。例えば、戦争、愛国教育、自然、科学技術などの単元がそうである。さらに、共通して掲載されている教材も多い。魯迅の作品や葉聖陶の「蘇州の園林」、朱自清の「後ろ姿」などはその例である。

同時に、いくつかの共通した問題点も見えてきた。それを以下のように整理する。

1. 生徒の主体性と自主性を重視することは現行の教科書に共通した大きな特徴と見られるが、実際には正解に導こうとするヒントが見られる。例えば、「老王」の導入部分には、「われわれのまわりには老王みたいな貧しくて身分の低い人がたくさんいる。彼らは社会に重視されていないが、素朴で優しい心を持っている。あなたはその優しさに気づいたでしょうか。」とあるように、この文章を読んだ生徒たちに考えさせる主題を最初から出している。
2. 生徒たちの総合的語文運用能力を高めることを意図して設置された「総合性学習」活動は、話す、書く、調べる、発表する、討論するといった広い意味での「言語活動」が盛り込まれているが、明確な教学目标が定まっていないため、実際に教育現場ではその活動の展開は難しいという苦情が出ている。資料を調べるためインターネットや図書館の使用は不可欠のものであるが、農村の学校では無理である。第一、高校入試と大学入試のプレッシャーを受けている生徒たちにとって、テストの採点が上がることに直接に繋がらないコミュニケーション活動に熱心に取り組む余裕がない。
3. 教材内容は「都市本位」の傾向が顕著で、農村をテーマとなった教材は現代作品の中ではほとんど見当たらない。まだ農業大国から脱出していない中国において、そうした現象は不自然である。またこれと同じように、多くの民族を含む国にありながら、少数民族に関する作品は教材に収められていない。
4. 翻訳作品は必ず掲載されるが、欧米の作家の作品が中心である。隣国の日本や韓国の作品は極めて少ない。日本の国語教科書には同様な現象が見られる。まずは同じアジアの隣国同士の作品を教科書に載せてほしいと思う。

地方版教科書には、江蘇版教科書の以外にも数多くのものが使われている。各地域の経済、教育水準、風俗習慣などに合わせて地方版教科書を開発することは中国が広くて国情が複雑という現状に対応している。しかし、問題点も少なくない。例えば、経済発展が進んでいる広東省では、広東教育出版社版教科書には「経済」と「ニュース」の単元が設けられている。その中に収録された教材は経済やニュースなどに関わるもので、表現は必ずしも優れていない上、内容には即時性が強く、教材として長く使えないという欠点を持っている。その他の教科書には、表現が洗練されていない歌謡曲の歌詞や流行の通俗小説まで採用されている。地方版教科書の発行にはより

厳しく審査する必要があるという指摘がなされている。

四. おわりに

検定制の導入によってさまざまな教科書が登場し、その分析は複雑な作業になってきたが、広大で多様な環境の下にある中国の語文教育の様子を捉えるには、基本的な資料として教科書研究は不可欠である。本稿では、中国の初級中学の語文教科書について、人民教育出版社の旧版と現行の課程標準版、地方が発行した教材には江蘇教育出版社版という3種の教科書を考察したが、それを通して、中国の教科書に関するいくつかの特徴が見えてきた。

1. 生徒たちが基本的な教材の学習を通して基礎的な語文能力を身につけることを大前提とし、従来の読む・書くことを中心にした教育方針を反省して、聞く・話す力を育成することを大きな課題として、生徒のコミュニケーション力の向上を図っている。これを実施し、その成果を出していくまでにはまだ時間がかかるようではあるが、教科書ではそれに相応する教材内容をすでに用意している。また、生徒の主体性は尊重されるようになりつつある。
2. 半年間で平均で30教材以上を取り上げる中国の語文教科書は、教材の数が多いという問題に対して、すべての教材を講読と読書教材に分けて、重点教材をしっかりと指導し、そうではない教材は指導時間を短縮する、あるいは課外読み物として扱う措置をとる。この方法によって、授業は効率よく進めることができる。
3. 語文教育には道德教育の要素が強い。建国後の各大綱を見てみると、「社会主義」「愛国主義」「民族精神」などに関わる内容は、常に教育目標の最初の部分に掲げられている。教材には戦争や愛国に関わる内容が多い。

以上は中国の語文教科書に対する調査・考察と分析であるが、今後、さらに日本の国語教科書との比較考察を展開し、日中両国の国語教育に対する考え方とあり方の基本的な相違、及びそれぞれの特色を明らかにする研究へと発展させることが課題である。

注

- (1) 「教学大綱」には「草案」や「試用」といった言葉が添えられているのが普通である。効力において違いはない。
- (2) 教材は表現も内容も優れていること。
- (3) 詩や詞を数える量詞である。
- (4) 課程標準に準じて編集された教材は、義務教育9年一貫性を導入し統一したことにより、もともと「中学二年上」といった教科書名は「八年上」と変わった。
- (5) 短文二篇：陋室銘 劉禹錫【唐】／愛蓮說周敦頤【北宋】
- (6) 短文二篇：答謝中書書 陶弘景【南朝】／記承天寺夜遊 蘇軾【北宋】
- (7) 詩四首：歸園田居 陶淵明【東晉】／使至塞上 王維【盛唐】／渡荊門送別 李白【盛唐】／登岳陽樓 陳與義【宋】
- (8) 江蘇教育出版社版のほかは、人民教育出版社版と語文出版社版があった。
- (9) 長征組歌二首：赤水を四回渡った／雪山と草原を渡る

- (10) 古詩四首：春望 杜甫／泊秦淮杜牧／十一月四日風雨大作 陸遊／過零丁洋 文天祥
- (11) 革命烈士詩二首：把牢底坐穿 何敬平／花 白深富
- (12) 古詩三首：送杜少府之任蜀州 王勃／夜雨寄北 李商隱／已亥雜詩 龔自珍
- (13) 古詩三首：望岳 杜甫／錢塘湖春行 白居易／登飛來峰 王安石
- (14) 古詩三首：雁門太守行 李賀／別雲間 夏完淳／論詩 趙翼
- (15) 新思考網ホームページ <http://www.cersp.com> (2009年9月10日閲覧)。

参考文献

- 石原千秋『国語教科書の思想』ちくま新書2005.10
- 南本義一『中国の国語教育』溪水社1996. 6
- 町田守弘「日本の国語教科書について——ドイツ、フランスの教科書から考える」『国語の教科書を考える——フランス・ドイツ・日本』学文社2001. 3
- 成實朋子「1990年代の中国国語教育研究—1996年「高級中学語文教学大綱」を中心に」『学大国文』45号記念文集 大阪教育大学2002. 3
- 青木五郎・中井光「日中両国国語共通教材の中国における教材研究の紹介」『京都教育大学教育研究所報』第30号1984. 3
- 李杏保・顧黃初『中国現代語文教育史』四川教育出版社1997. 4
- 周慶元『語文教育研究概論』湖南人民出版社2005. 8

**A study of national language textbook of China:
In the case of the junior high school**

DING Qiuna

The middle school of China corresponds to the junior high school of Japan. This thesis considers the national language textbooks of the junior high school in China. In the past, there was only one national language textbook in China which was based on the standard of "teaching program" (equivalent to the "national curriculum guideline" of Japan). However, in order to deal with various scholastic demands from students in various regions, with the execution of the "teaching program" in 1986, the national textbook system was abolished and the textbook authorization system was adopted. This reform enabled a great variety of textbooks to be published in the latter half of the 1980's. This paper will examine the middle school text, *YUWEN* (the third edition, for the second grade students of middle school, Jiangsu Education Press) which was edited according to the "teaching program" in 1986 and *YUWEN* (for the eighth grade students, People's Education Press) which was edited according to the "Course standard of compulsory education" in 2001. In addition, to consider the textbooks published in a local area, we will take up the *YUWEN* experimental edition (for the eighth grade students, Jiangsu Education Press) to make the trait of the national language textbook of China clarified.